

論拠を明らかにして書く力を身に付けるために、評論の論の展開や資料の読み取りを活用するアイデア

実践場面

高等学校 2 学年 論理国語

「自分の主張が的確に伝わるよう論拠を明らかにして書く場面」

ねらい

「読むこと」で学習する「内容や構成を捉える」「表やグラフ、資料を読み取る力」を生かして、論理的な文章構成と論拠を明らかにして書く力の育成を目指す。

【アイデアのポイント】

「読むこと」で身に付けた力を「書くこと」で活用・発揮します。特に評論で学習した論の展開を、資料の読み取りと組み合わせて実際に書くことで、論拠を明らかにして書く力につなげます。また、「書き方」を身に付けることに焦点を当て、一つの資料から複数のタイプの文章を書くようなアイデアにしました。

評論で学習する論の展開（例）

- ① 具体例を複数挙げて、抽象化に結び付け、説得力をもたせる。
- ② 複数の視点を取り上げ、比較しながら、一般論に結び付け、説得力をもたせる。
- ③ 一般的に信じられている常識や事柄について、根拠をもとに批評したり、反論したりする。

資料の読み取りで学習する内容（例）

- ① タイトルや項目、単位や調査年等から、資料の大まかな内容を把握する。
- ② 数値の増減、顕著な変化が見られる部分を確認し、特徴を把握したり、自分の考えをもったりする。
- ③ データの内容や示し方が適切か考察する。



このような学習内容を踏まえて、

グラフを活用して「書くこと」のトレーニングをしてみてもいいでしょうか。

単元名 論の構造に注意して意見文を書こう

時数 4 時間

指導目標

- 文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。（「書くこと」オ）

□ 1 時間目

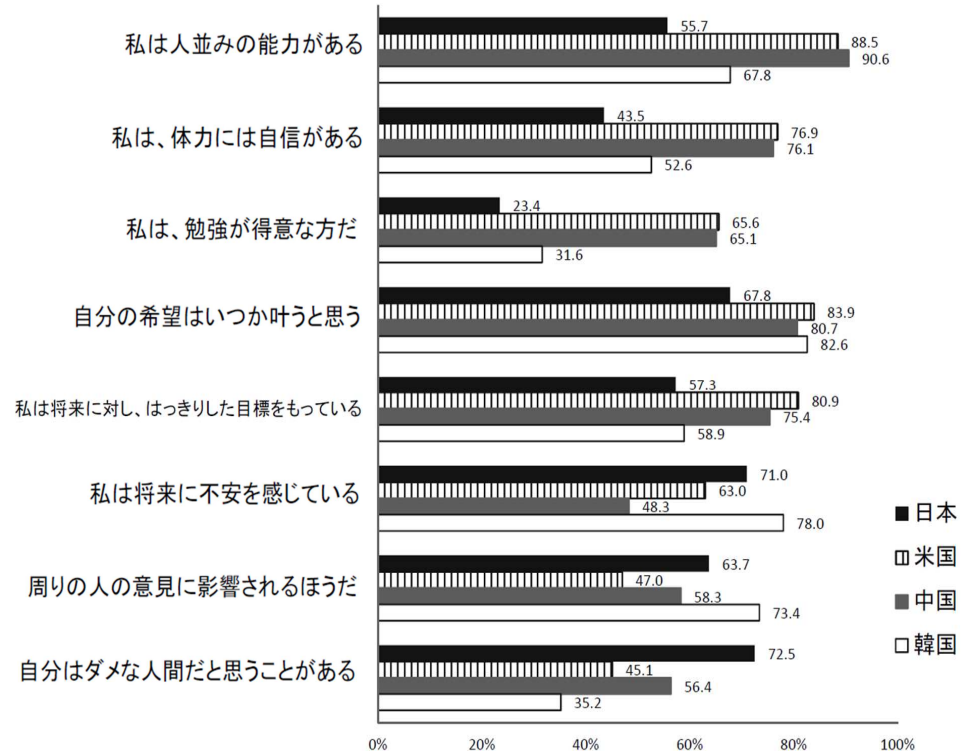
右の資料から、具体例を複数挙げ、抽象化につなげる文章を実際に書いてみよう。

日本の高校生は、
○○や△△の数値
が高い傾向にある。

日本の高校生は、
他国に比べ○○の
数値が低い。



自分の挙げた具体例から、どんな抽象化ができるか考えてみよう。



自己評価「とても思う」「まあそう思う」と回答した割合
 高校生の生活と意識に関する調査2014（日本青少年研究所）より

□ 2 時間目
 右の資料から、二国を取り上げて比較し、一般論を導き出したり、主張を支える根拠を挙げたりしよう。

日本 と アメリカの比較から

自分の能力について

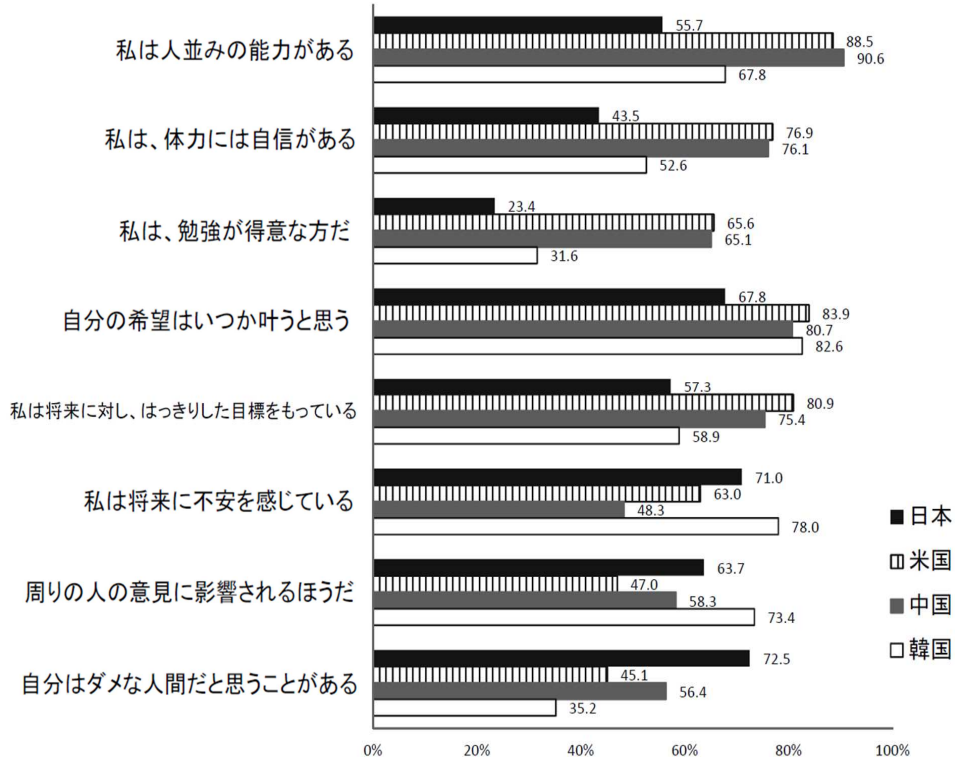
日本は、…。アメリカは、…。

勉強について

日本は、…。アメリカは、…。

将来について

日本は、…。アメリカは、…。



自己評価「とても思う」「まあそう思う」と回答した割合
 高校生の生活と意識に関する調査2014（日本青少年研究所）より

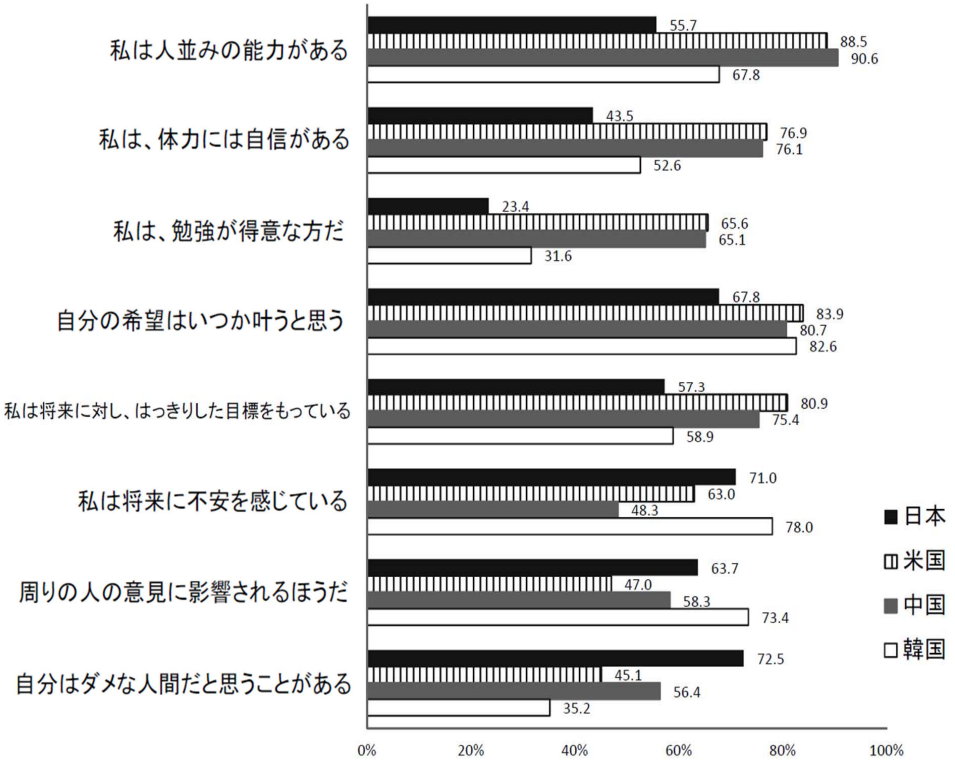
比較から、どんな一般論が導き出せるか考えてみましょう。根拠として取り上げる資料も吟味してみると説得力が生まれますね。

□ 3 時間目
 一般的に信じられている事柄について、根拠を示しながら批評したり、反論したりしてみよう。

一般論として、例えば…
 「日本の高校生は、諸外国の高校生に比べて自己肯定感が低い」
 を設定してみましよう。



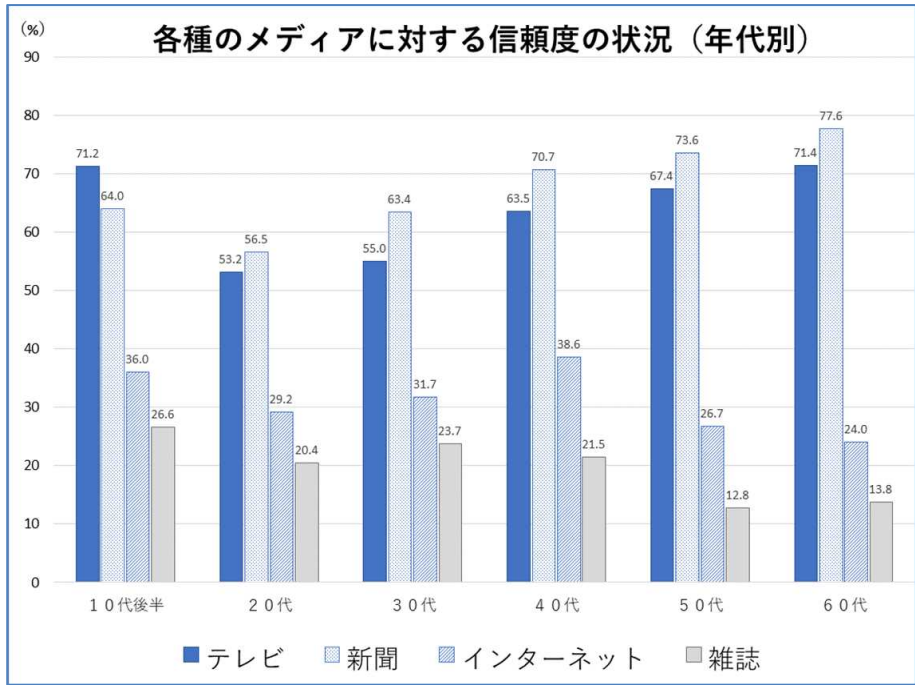
「そうとは言い切れない」と相手が思うような根拠になるデータを資料から探し、意見文を書いてみましょう。



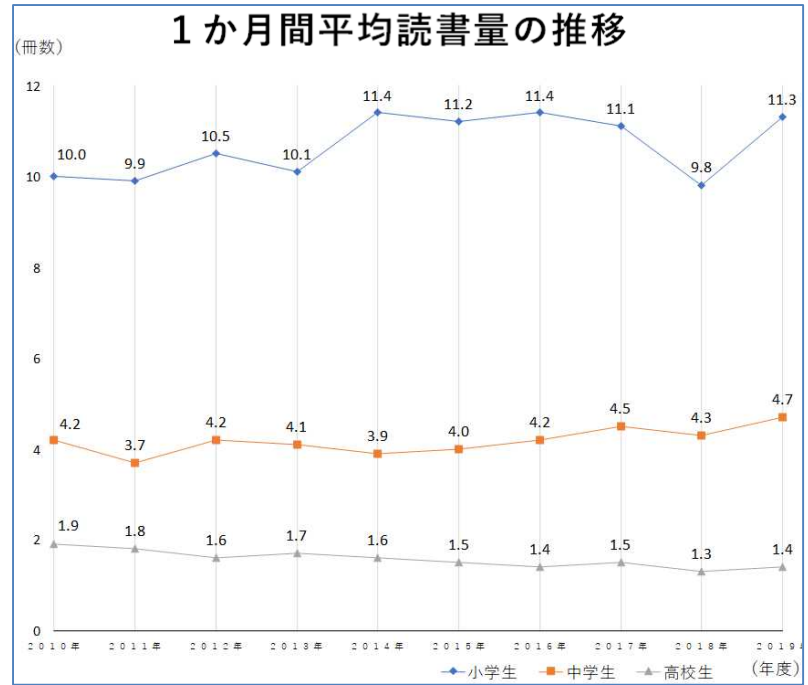
自己評価「とても思う」「まあそう思う」と回答した割合
 高校生の生活と意識に関する調査2014（日本青少年研究所）より

同じ資料から様々な文章を書くことで、文章の型の違いが見えてきますね。また、それぞれの文章で着目する資料にも違いが出てくるのが分かってきます。





「平成29年情報通信白書（総務省）」をもとに作成



「読書世論調査2020版」をもとに作成

□ 4時間目（発展）

色々なグラフや表を基に、どのような主張の意見文を書くことができるか、そのために有効な型はどのタイプか検討するために構成メモを作ってみよう。

単元のまとめとして、1～3時間目の学習を踏まえて、様々なグラフから意見文を書く発展学習も設定できそうですね。

